

様式1 令和4年度 山梨県立身延高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針 「学び」の学校づくりを推進し、「文武両道」の実現を図り、活力ある学校づくりを進める。さらに、地域とともにあり、信頼される学校づくりを推進する

山梨県立身延高等学校校長 佐野 隆弥

本年度の重点目標	1 自主的創造的な学習態度の育成
	2 剛健の気風と豊かな人間性の育成
	3 規律節制を守る自律的生活態度の育成
	4 魅力づくりに努め、地域とともにあり、信頼される学校づくりの推進

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自 己 評 価							
番号	評価項目	本年度の重点目標	具体的方策	年度末評価(令和5年3月15日)			
				方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	自主的創造的な学習態度の育成	本年度の重点目標	① 主体的・対話的で深い学びを実現するために、ICTを利用した活動や考えを表現する活動を充実させる。	各教科の目標に対する達成度及び授業アンケート	各教科ともに、考えを表現する活動については、概ね実施できた。 ・家庭での学習に向けた指導がなされているかどうかについては、生徒、保護者ともに昨年度より若干増加したものの75%程度にとどまった。 ・ポートフォリオの活用はやや不十分な部分があった。また、進路志望の実現については概ね達成できている。 ・3観点の観点別評価について、評価の時期が、単元終了時ではなく、すべて定期テスト時になることがあり、全体の評価に時間がかかってしまった。	B	・ICTを活用した表現の活動については、今後も実施を促進していく。 ・すべての生徒が家庭での学習に取り組めるような指導を検討していく必要がある。家庭学習の習慣化については、校内の委員会でも推進し方策について検討していく。 ・キャリア行事の終了時にHRTにポートフォリオ記入の指導をしてもらった。進路実現に向けた指導や取組について組織的に対応するようにしていく。 ・3観点の観点別評価について、評価方法だけでなく、適切な時期に評価を行うことが必要である。
			② 適切な宿題・課題、ICTの活用による授業外学習時間の確保と習慣化を目指す。	適切な学習課題を与え、継続的に取り組ませる。各教科の達成度と授業アンケート			
			③ ポートフォリオ導入など適切な進路情報の提供と、進路目標に応じたきめ細かな指導を行い、進路志望実現率を向上させる。	的確な進路志望の把握と進路目標に応じた学習環境を提供した上での進路実現の達成度			
			④ 授業や生徒の学習を改善するために、観点別評価の修正および改善を行う。	3観点での評価方法および評定決定方法について作成			
2	剛健の気風と豊かな人間性の育成	本年度の重点目標	① 本校の実情にあった部活動や委員会のあり方の検討や活動状況の把握に努め、さらなる活性化を図る。	教員数減に伴う部の見直し状況と部活動・委員会活動満足度の調査	・中高連携及び本校の実情に合うように部の適正化を進めることができた。関東大会での好成績や全国大会の出場など今年も実績を残すことができた。 ・きずなの日だけでなく、相談等の対応を行い、今年も90%以上の肯定的な意見が得られた。	A	・部活動、委員会活動について、今後も達成感を得られるような指導を行っていく。 ・生徒相談について、今後もますます増加することが予想されるので、そのための時間を確保できるよう取り組んでいく。
			② 業務の効率化を図り、放課後等に生徒相談を行う。	設定したきずなの日を活用			
3	規律節制を守る自律的生活態度の育成	本年度の重点目標	① 基本的な生活習慣の確立に向けた指導を充実させる。	遅刻や健康観察入力の状況等	・朝の健康観察指導をより丁寧に行い、生活指導や服装指導を行うことができた。 ・スマートフォンに関して、教員の許可のもとで使用する以外は、校内で使用する生徒はいなかったが、SNSでやや軽率な使用が見受けられた。	B	・朝の昇降口での健康観察指導は行われないが、SHRなどで生活指導など継続的に行っていく。 ・SNS上で表現方法や他人の受け止め方などに注意する必要性などについて、継続的に指導する。
			② 頭髮・服装指導やスマートフォン等の正しい活用方法の指導を充実させる。	年次やスクールライフ部の記録			
4	魅力づくりに努め、地域とともにあり、信頼される学校づくりの推進	本年度の重点目標	① 学校運営協議会において、学校の教育方針を伝えると同時に、地域の方から建設的な意見を伺い、信頼される学校づくりに取り組む。	学校運営協議会の開催回数や、伺った意見のうち取り入れて改善した項目数	・学校運営協議会では、本校の課題について議論していただき、課題解決の方策について方向性を明確にすることができた。 ・HP、情報誌など、中学校向けに本校の教育活動について発信することができた。	B	・学校運営協議会でのいただいた本校の魅力発信方法を実施していく。 ・HPに関しては、今まで以上に更新のタイミングを大切にするとともに、生徒から直接発信する方法などについて検討を行う。
			② 魅力的なHPや情報誌の作成を進め、地域・保護者や中学生に学校の様子を発信・公開する。	HP更新・情報誌発行状況			

学校関係者評価	
実施日(令和5年3月22日)	
評価	意見・要望等
3	・今後も生徒に実態を踏まえた学習意欲の高揚、学力の向上に向けた取組を継続していくことを期待している。 ・キャリア教育の成果を、中学校でのキャリアセミナー、総合学科発表会で感じることができた。 ・総合学科発表会では生徒の自主性を養うためにも大切な機会であったと思います。社会に出てからのキャリア教育にも有意義だと思ふ。 ・朝の読書に対する取組が読書習慣を進めていると感じる。 ・卒業後の進路に向けて目標がかなえられるカリキュラムは用意されていると思う。家庭学習の時間と関係すると思うが、やる気をいかに起こさせるかがカギと思う。 ・小規模ながら一人一人の将来に向けた指導・支援がされている。
3	・きめ細かな指導をベースに一人ひとりの生徒の豊かな人間性の育成を目指してほしいと思う。 ・部活動で生徒たちの個性や能力を伸ばしていると感じる。 ・個々の生徒に対する相談などを十分に行うことができおり、生徒からの評価も高い。 ・カウンセラーの配置や利用しやすい体制づくりを行っている。 ・部活動を意図的に取り組んで成果も出ていると思う。
3	・学力向上の基本となる生徒の安定した心情(精神状態)を可能とする生徒に寄り添った生徒指導を組織的に進めてほしい。 ・特別な支援が必要な生徒にも可能な配慮をいただいていると感じる。 ・ボランティア活動なども行われており、学習以外の生徒指導も充実していると思う。
3	・これから志願者の確保のためにも、中学生やその保護者に対して、身延高校の魅力を積極的に発信していくしてほしいと思う。 ・ライフミュージアムという他校には見られない取組は、学校が開かれた交流の場になっていると思う。 ・中高・高大連携に積極的に取り組み、一定の成果を上げている。地域との連携は課題が残る。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。